

## IAUD Newsletter vol.6 第9号 (2013年8月下旬号) 目次

1. INCLUDE ASIA 2013 参加報告 . . . . . 1
2. 48時間デザインマラソン in こうべ 開催のご案内 . . . . . 10
3. 第3回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 申込み受付中 . . . . . 10
4. IAUD 9月の予定 . . . . . 11

## 特集：香港で開催された INCLUDE ASIA 2013 川原専務理事と大島理事の参加報告



講演する川原氏



ワークショップを運営した大島氏

香港デザインセンター主催、英国王立芸術大学院（Royal College of Art）ヘレン・ハムリン研究所と香港理工大学共催による「INCLUDE ASIA 2013」が7月2日（火）～3日（水）に香港のホテル・アイコンで開催されました。川原啓嗣専務理事と情報交流センター国際連携担当の大島誠理事が招待され、講演とワークショップを行ないました。今号のNewsletterは、「INCLUDE ASIA 2013」について川原専務理事と大島理事に報告をしていただきます。

### ■報告 1：INCLUDE ASIA 2013 に参加して

川原啓嗣氏

(IAUD 専務理事、インダストリアルデザイナー/名古屋学芸大学大学院教授)

香港デザインセンターが行なう毎年の恒例行事「KODW (Knowledge of Design Week：設計知識週)」は今回、「デザインフォーオール (Design for All: Game Changing in Business & Society)」の大テーマのもと、前半の2日を英国王立芸術大学院ヘレン・ハムリン研究所と香港理工大学の共同主催になる「Include Asia 2013」、そして中日1日の「KODW Forum」をはさみ、後半の2日を「Asian Culture Forum」として計5



日間実施されました。

世界各地から約 30 名の著名な講演者を招き、様々なテーマで講演やパネルディスカッション、ワークショップ等のセッションを行ない、「Asian Culture Forum」には日本から黒川雅之氏や中村正樹氏、そして浅葉克己氏も講演者として招待されました。

私は「Include Asia 2013」において講演とワークショップを行ない、「KODW Forum」のプログラムのいくつかに参加しました。

※「KODW」の概要は下記 URL をご参照ください。

<http://www.hkdesigncentre.org/kodw/2013/>

## 会場は高級デザイナーズ・ホテル

会場は昨年と同様、九龍半島の繁華街チムシャツィに一昨年前にオープンしたホテル・アイコンです。テレンス・コンランほか著名な建築家、インテリアデザイナーが設計に関わった、クリエイティブ関連事業に携わる方にとっては一見の価値がある高級デザイナーズ・ホテルですので、香港出張の機会があればぜひ訪れてみることをお勧めします。※昨年の KODW 参加に関する記事は下記の IAUD Newsletter 2012 年 8 月号をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1208/09-155720.php>

## 「Include Asia 2013」初日は基調講演と 3 つの講演

初日 7 月 2 日（火）は開会の挨拶の後、ロンドン五輪会場跡地再開発公社の設計主監キャスリン・ファース氏による基調講演が行なわれました。彼女は 2012 年に開催されたロンドンオリンピック会場跡地をどのように再開発し、市民に役立てているかについて、インクルーシヴデザインの観点から解説しました。

次に王立芸術大学院学長のポール・トンプソン氏が、「他の 90% の人々のためのデザイン (Design for the Other 90%: Global Problems and Local Solutions)」と題して講演を行ないました。米国、欧州、そして日本など先進工業国では高齢者や障害者向けデザインに関心が集まっていますが、世界の残りの 90% にあたる発展途上国では貧困や飢餓、そして安全な水の確保などが大きな問題であり、それらを解決するためのデザインが求められていると様々なデザイン事例を交えながら話しました。

## 講演「311 以後の日本のインクルーシヴデザイン」

次に、私が「311 以後の日本のインクルーシヴデザイン (Inclusive Design in Japan after 311)」と題し、東日本大震災以降、日本人の意識が大きく変化し、以前に増して安全や安心に関する関心が高まり非常時にも配慮した生活用品が求められていること、そして被災地にも住民参加型の新しい考え方に基づいた住宅建築が見られることなどを説明しました。

3 人目の講演者、ダン・フォーモサ氏は「デザインはどのように世界を救うことができるか (How Design can Save the World)」と題し



講演する川原氏

て、米国のデザインの現状と今後の展望について、固定観念から抜けきれない産業界の批判を交えつつ、米国人らしいユーモアで講演しました。

その後、地元の香港理工大学デザイン学部長ケーズ・デュボン教授が、基調講演と3者の講演を総括し感想を述べ、午前中のプログラムを終えました。

午後は論文発表セッションが行なわれましたが、私は、香港障害者団体の代表者とのミーティングが予定に組み込まれていたため出席しませんでした。

その団体は IAUD との連携を強く望んでおり、近く着工する障害者センターのショールームやライブラリーなどを UD のコンセプトで整備したいとのことで、私たちのワークショップにも参加するほど意欲的でした。

その後、夕方にホテルのプールサイドで開かれた歓迎レセプションに参加し、この日のプログラムを終えました。



歓迎レセプション

## 好評だったワークショップ Inclusive Design in Japan



優秀論文の表彰

2日目の3日(水)午前中は論文発表セッションが行なわれ、午後2時からクロージングセッションが開催されました。米国デザインサイエンス社主席/創設者で今回の論文審査委員長でもあるスティーブン・ウィルコックス氏が2日間の総括を行ない、その後、IAUDの国際会議でも招待講演者として何度か参加いただいた米国のパトリシア・ムーア氏、香港理工大学デザイン学部長のケーズ・デュボン氏、同大学ディレクターのアルヴィン・イップ氏、そして九州大学教授の平井康之氏の4名によるパネルディスカッションが行なわれ、閉会となりました。

午後4時から7時30分までは、ワークショップが行なわれました。同時間帯に3つのワークショップが並行して開催されたのですが、その一つが私たちの「Inclusive Design in Japan」で約60名の参加者がありました。

香港の隣の深圳市から深圳工業デザイン協会メンバーが大挙して参加しているというので、私たちだけでなく香港デザインセンターの人々もワークショップの評判を大変気にしていたようですが、後日お聞きしたところによると、こと私たちのワークショップに関する限り、参加者の多くが内容に満足していたとのことで、ホッと胸を撫で下ろしています。  
※ワークショップの詳細は5ページからの大島理事のレポートをご覧ください。



IAUD 主体のワークショップ

ワークショップ終了後、午後8時30分より「歓迎晩餐会 (Speakers Welcome Dinner)」が最近オープンしたばかりという話題のレストラン「Duddell's」で行なわれました。

英国のインテリアデザイナー、イルス クロフォードによる室内は芸術家や文化人が集う邸宅といった趣きで、屋外テラスへと続く開放感もなかなか洒落ており、こういう場所で講演者の労をねぎらう主催者側のホスピタリティを十分感じさせられました。



歓迎晩餐会

## アジアの経済成長を実感した「KODW Forum」

3日目の4日(木)は香港デザインセンター主催の「KODW Forum」として、午前中に「ソーシャルイノベーションのデザイン」、そして午後「デザインイノベーション・マネジメント」と題して、それぞれ講演とパネルディスカッションが行なわれました。

タイムリーなテーマ設定にも感心させられますが、なにより最近の日本の同種のフォーラムであまり見られなくなった活気と勢いが感じられ、アジアの経済成長を実感します。なかでも、元 LG 電機副社長兼デザインセンター長で韓国 KAIST 工業デザイン学部の李健杓教授の講演は、日中韓の携帯電話ユーザーのテイストにおける文化的違いから、それぞれの市場のビジネス予測を導き出すというもので、じつにダイナミックで説得性を感じるものでした。彼のようなデザインエキスパートが経営トップにいる企業には容易に勝てないわけだと妙に納得させられました。

この日の夕方には「InnoDesign Leadership Forum」という地元香港の企業経営者と招待講演者との交流を目的としたディナーパーティーが開かれました。

ディナーに入る前に、China Market Research Group 創始者で CNN や Bloomberg の経済コメンテーターとしても知られるショーン・レイン氏、米国ジバデザイン社の戦略ディレクター、濱口秀司氏、そしてフログデザイン社のエグゼクティブディレクター、ジャン・チップチェイス氏の3者による軽妙なトークとディスカッションが行なわれました。欧米式のパーティー慣れた進行で参加者の知的好奇心をかき立て、それぞれのディナーテーブルに集う人々に話題を提供するという演出は、日本人ももっと見習ってよいでしょう。

## 人間性を尊重する UD 思想を更にアピール

5日(金)は午前中に蘋果日報(Apple Daily)という新聞のインタビューがありました。インタビュアーの女性記者はなんと独学で日本語を勉強しているとのことで、ノートに日本語で質問内容を書いて準備しており、質問もできるだけ日本語で話すなど、並々ならぬ意気込みを感じさせられました。

昨年感じましたが、香港のジャーナリストはデザインに対する関心が高く、真摯に物事に向き合おうとする意欲がありますが、わが日本では問題として認識さえしていないかのような反応の鈍さに苛立ちを覚えます。

すべての日程を終え、その日の午後の便で香港を発ちました。離陸する飛行機の窓から次第に小さくなる香港島と九龍半島を眺めながら、尖閣諸島や反日デモ等の影響でなかなか難しくなっている最近の日中関係も、「思いやり」や「おもてなし」など人間性を尊

重なる UD の思想をもっとアピールし、民間レベルの人と人の交流を深めて行くことでかなり和らげられるのではないだろうか、また北京や上海など中国内地の都市と比べ、英国統治時代の民主主義的遺産が残る香港は、まだ日本にとって与しやすいパートナーとなり得るなど、あれこれと考えをめぐらせていました。(了)

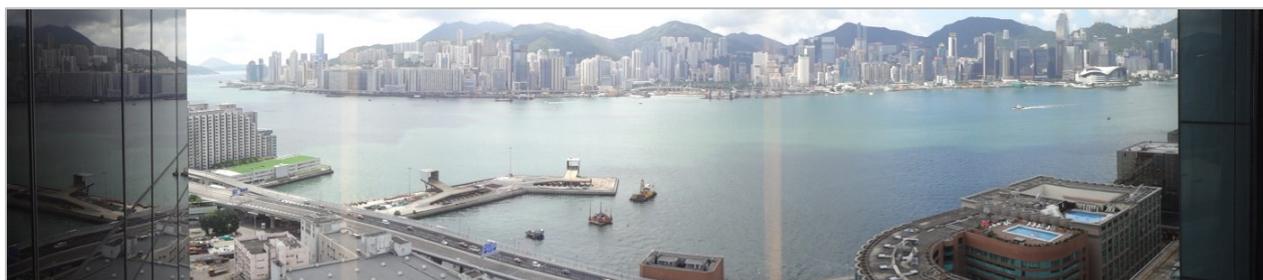
## ■報告 2 : INCLUDE ASIA 2013 ワークショップ実施報告

大島誠氏 (IAUD 理事、トヨタ紡織(株)技監 F-クリエイト部繊維技術部)

毎年香港で行われる KODW では今回、前半の 2 日間に「INCLUDE ASIA 2013」が開催されました。

2 日目のパネルディスカッションでは、ロンドン以外でインクルーシヴデザイン会議を実施する事が高齢化、都市化のような世界的な問題を議論する事に大きな意味があること、またアジアにおけるインクルーシヴデザインの実践やアジア各国での展開を期待するとの意見が出されました。

さらに、ヘレン・ハムリン研究所のジェルミー・マイアソン教授からは、川原専務理事の講演「311 以後の日本のインクルーシヴデザイン」および日本における安全、安心に対する意識の高まりと復興の状況に対する賞賛のコメントがなされました。



ホテル・アイコン 25 階より香港島を望む

## IAUD 主体では初の海外開催ワークショップ

「INCLUDE ASIA 2013」の 2 日目である 7 月 3 日 (水) に、IAUD 主体では初めて海外での開催となるワークショップ「Inclusive Design in Japan」を川原専務理事と実施いたしました。

今回のテーマは「KID'S GOODIES (子供の為の道具)」。約 60 名 (運営スタッフを含む) の参加者のうち、殆どは中国国籍の方で、他は欧州から 2 名、日本から 1 名でした。中国からの参加者は地元香港在住の方々に加え、深圳地区からの参加もありました。



ワークショップで講演する大島氏

### ワークショップスケジュール

- 16:00～16:15 自己紹介、グループ分け
- 16:15～17:00 講義「日本でのUDワークショップ」
- 17:00～17:15 UD製品サンプル観察、実体験
- 17:15～19:00 テーマに基づきディスカッション&アイデア創出
- 19:00～19:50 プレゼンテーション（各チーム10分）
- 19:50～20:00 講評（川原、大島）

今回は会場レイアウトに改良を施して、5グループでの実施としました。また、4時間と限られた時間の中でワークショップを実施する為に、予めスケジュールの検討や教材を準備しました。

冒頭の講義では日本での48時間デザインマラソンの実施状況や優秀事例の紹介などワークショップのノウハウを実施事例に従って説明しました。

さらに、キッズデザインアワード受賞作品のうち、IAUD会員企業の製品を中心に紹介しました。また、会場に搬入できる小物製品を持ち込み、実際に参加者に使用してもらって理解度を高めて頂きました。



キッズデザイン受賞作品を体験する参加者

### 紹介したキッズデザインアワード受賞作品

- ①積水ハウス(株) アクティブフロア&ロフト
- ②(株)岡村製作所 テクノキッズチェア「ステラ」
- ③パナソニック(株) ネックライト
- ④住友3M(株) キッズシザーズ
- ⑤こぼれない蓋 キスシリーズ
- ⑥安全耳搔き ママミエール
- ⑦トンガフィット
- ⑧ノンスリップうどん

## 言葉の壁を乗り越えてのアイデア創出作業



チーム内でディスカッションする参加者

UD製品のサンプル観察と実体験の後、各チームはディスカッションとアイデアの創出に着手しました。グループ毎に異なる雰囲気の中、ブレインストーミングや具体的なアイデアのビジュアル化へと進みました。

チームによっては英語中心のコミュニケーションに時間がかかり、アイデアは出るもののディスカッションの進行が遅く、テーマの絞込みまでに時間がかかりました。言葉の壁を乗り越える為に、様々な努力が必要です。

各チームは出身国の文化や価値観、言語の違いから表現の仕方に知恵を絞り、4時間はあっという間に過ぎて行きました。

また、別のチームではコンセプトから言葉によるアイデア出しの場面で、テーブルの上に模造紙をひろげて書き込みながらディスカッションを行う光景が見られました。このチームにはワークショップの経験者が何人かいると思われました。会場には大小の紙類、筆記用具、イラストレーションを描く為のマジックマーカー等必要な道具が揃っており、香港デザインセンターの方々の用度品準備に感謝いたします。



アイデアを模造紙に書きだすチームも



アイデアの可視化

アイデアが絞り込まれると、イラストやスケッチの得意なメンバーがアイデアをかたちにする作業が始まりました。ここでも言葉の壁を乗り越えて、お互いの思いを伝える状況が見られます。

アイデアの可視化の段階では、デザイン関係の方々にはスムーズなコミュニケーションが出来るようです。

いよいよ纏めを行い発表の準備をします。各チーム持ち時間は質疑を含めて10分としました。

## ユニークなアイデアにあふれたプレゼンテーション

### Aチーム：テーマ「正しく食べる」

スプーンを正しく使えない子のいるメンバーからの発案。スプーンに取り付けられた手袋状のケースを用いた、子供が正しくスプーンを使う為の練習道具。正しく使うと音楽が鳴り楽しめます。アイデアは新鮮で子育て感があり微笑ましく、PARETING賞としました。

### Bチーム：テーマ「ITを用いた子供の為の道具類」

I-drink (IT技術により中身がこぼれない容器の提案) や I-Tag (紛失防止のタグの考案)、Fair Talk (大人の目線で子供が会話できる室内什器) など、ITを用いた様々なグッズの提案を議論していましたが、アイデアの列挙までで時間切れ。

ややチームとしての絞込みと深彫りに欠けましたが、ヨーロッパからの参加者を含めグローバルに議論に集中していました。DIVERSITY賞としました。

### Cチーム：テーマ「コンパニオン」

入浴で子供がシャンプーを嫌がるというメンバーの問題提起に端を発しています。プレストの結果様々に発展し、いつも一緒にいる相棒として授乳の補助具や抱いたりあやしたりで色が変わるなど、遊具としても性格を持たせた点が好評でした。スケッチにも具体的なイメージが良く表現されており、REALISTIC IDEA賞としました。

## D チーム：テーマ「子供用爪切り」

子供の爪を切るというピンポイントのニーズからアイデアに集中するものの、実際のシーンや安全に配慮したアイデアまでは発展できずに時間切れの様子でした。SAFETY & WELL BEING 賞としました。

## E チーム：テーマ「Happy Injection（痛くない注射）」

深圳地区からの参加のメンバーで構成されていました。小児医療分野に着目し苦痛を感じさせない注射を目指した様子。ブレインストーミング、ポストイットを用いたコンセプトからアイデア創出までの進め方等、ワークショップの経験はありそうでプロセスを重視しています。

最終案は注射器の改良から病院施設の改善まで広範に提案していました。プレゼンテーションの後、外のチームから盛んに質問が飛び盛り上がりもあり、THEORY 賞としました。



チーム毎のプレゼンテーション

## 積極的に UD を学ぶ姿勢

4 時間という限られた時間の中で、レクチャーから学んだ事例や UD 製品を体験し、テーマに即して熱心に取り組んでいました。

また、リーダーやスケッチヴォランティア等の役を率先して引き受ける姿勢や、合評会時には外のチームから多くの質問や指摘が挙がる等、特にこの地区の方々の UD を学ぶ積極性を感じました。今回のワークショップはフィールドサーベイやユーザーがいない状況でしたが、自分達の経験の中から子供の生活を想像してアイデアを提案し、必要な道具や遊具を創造する経験ができました。

中には時間や言葉の問題からか、アイデアの列挙に留まるチームもありました。日本のワークショップではコンセプトやアイデアのチーム内共有は当たり前ですが、複数の国のチームメンバーにて構成される場合は簡単ではありません。焦点を絞り込んでいけば面白い提案に到達する可能性があります。



活発な質疑応答が行われた



講評する大島氏

さらに、海外でのワークショップは通訳の手間や時間を考慮する必要があります。英語だけでの説明では不十分です。また、レクチャー内容を事前に通訳者に開示するなど今後の改良が必要と感じました。

今回は参加者の要望により、全チームに相応しい賞を考案してモチベーションの向上を図りました。今後はデザイン力やCADを用いたプレゼンテーションのスキル等、レベルアップの必要性があり、継続的な活動によりそれらが備わる事が望まれます。

## 今後はより実践的なワークショップ開催へ

Include Asia 2013にて開催されたワークショップ3をIAUDが主体となって運営できた事、またこの機会を経験できた事を大変有難く思います。

現地の方々のUDに対するモチベーションは高く、今後更なる協力体制によって、より実践的なワークショップ活動が出来る事をイメージしました。

今回のワークショップに協力していただいた香港デザインセンターのEdmund Lee氏をはじめ関係の方々に心よりお礼を述べると同時に、今後もIAUDとの親密な連携をお願いして本報告を終了致します。(了)



好評だったワークショップ

## 「48時間デザインマラソン in こうべ」開催のご案内 「暮らしと絆」-未来を繋ぐ、街を繋ぐ、そこに住まう人の心を繋ぐ-

IAUDはUDを生活者と共に考え、具体的なデザイン開発と提案を行うワークショップ「48時間デザインマラソン in こうべ」(後援:神戸市)を9月17日(火)から9月19日(木)に神戸芸術工科大学(兵庫県神戸市)で開催します。

今回は、「暮らしと絆-未来を繋ぐ、街を繋ぐ、そこに住まう人の心を繋ぐ-」をテーマに、神戸から日常的な暮らしを再度見つめなおします。そして、UDの意義や生活での重要性を共有し、神戸の暮らし手の皆様と共に私たちのこれからの暮らしのデザインについて提言を行います。

19日(木)13時30分からの公開プレゼンテーションは聴講無料です。ご希望の方は会場に直接お越しください。皆様のご来場をお待ちしております。



昨秋開催の「48時間 DMin 福岡」表彰式

詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1307/25-111111.php>



UD検定™

### 第3回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 申込み受付中!

UDの更なる普及と実現をめざす一環として、IAUDが昨秋よりスタートさせた「UD検定」の3回目となる「第3回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」を、9月16日(月・祝)13時半からデザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO、兵庫県神戸市)で実施します。

今回もUDに関する基本的な知識を学習する講習会(2時間)とUD検定初級試験(1時間・50問)のセット形式です。その場で学習でき、事前の準備が不要ですので、UDに興味のある一般生活者も気軽に参加できます。また、合格者には「UD検定・初級認定証」が発行されます。

申込受付を開始いたしました。

検定の詳細または受験をご希望の方はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1308/09-200000.php>

※「第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」開催報告はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1305/31-150000.php>



第2回 UD 検定 初級 講習会&検定試験(浜松町)

# IAUD 9月の予定



| 月  | 火                                   | 水  | 木  | 金   | 土  | 日  |
|--|-------------------------------------|----|--|---|----|----|
| 2  | 3                                   | 4  | 5<br>14:30～<br>メディア UDPJ<br>@IAUD サロン  | 6   | 7  | 8  |
| 9  | 10<br>14:00～<br>WS 委員会<br>@IAUD サロン | 11 | 12   | 13  | 14 | 15 |
| 16 敬老の日<br>第3回 UD 検定・<br>初級 講習会&検<br>定試験<br>@KIITO | 17<br>48HDM<br>@神戸芸術工科<br>大学        | 18 | 19   | 20<br>13:30～<br>手話用語 SWG<br>標準化研究 WG<br>@セイコーエプ<br>ソン東京<br>17:00～<br>手話用語 SWG<br>講演会<br>@セイコーエプ<br>ソン東京 | 21 | 22 |
| 23 秋分の日  | 24<br>13:30～<br>余暇の UDPJ<br>@乃村工藝社  | 25 | 26<br>10:00～<br>住空間 PJ<br>@IAUD サロン<br>13:00～<br>衣の UDPJ<br>@IAUD サロン<br>15:00～<br>研究部会<br>@IAUD サロン | 27<br>15:00～<br>運営委員会&<br>国際会議実行<br>委員会<br>@IAUD サロン  | 28 | 29 |
| 30   |                                     |    |  |   |    |    |

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は 9 月下旬発行予定

特集：第 5 回国際デザイン学会連合国際会議 市民公開講座講演&出展報告（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階  
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : [salon@iaud.net](mailto:salon@iaud.net)